

(資料情報) HUNHM 所蔵墓標資料の収集情報の混乱について

加藤 克ⁱ・高谷 文仁ⁱ

はじめに

北海道大学植物園・博物館(以下 HUNHM と表記)が所蔵するアイヌ民族資料には、9 点の墓標資料が含まれている。公開されている資料目録(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2008)によれば、それらの資料情報は表 1 のようになっている。以下【 】で括った数字は HUNHM の資料番号を示す。

表 1 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園(2008)掲載 HUNHM 所蔵墓標資料情報

資料番号	資料名	収集地	製作者	収集者
【00172】	墓標 模型	棒状 白黒木綿布 青白紐	旭川近文?、名取によれば浜益	
【00173】	墓標 模型	刀形 白黒木綿布 男用	浜益浜増毛	山下三五郎
【00174】	墓標 模型	槍形 白黒木綿布 男用	浜益浜増毛	山下三五郎
【00175】	墓標 模型	T 字形 白黒木綿布 女用	浜益浜増毛	山下三五郎
【00176】	墓標	Y 字形 白黒木綿布	浜益	名取武光
【00177】	墓標	棒状 白黒木綿布	浜益	
【00178】	墓標	槍状 白黒木綿布	浜益	
【00179】	墓標	字形 白黒木綿布	浜益	
【00180】	墓標	Y 字形 風化	上川	新渡戸稲造

表に見るように、7 点が浜益(浜増毛)、1 点が近文(ただし、「近文?」とした上で「名取によれば浜益」とする)及び 1 点の上川収集資料となる。しかしながら、HUNHM 所蔵アイヌ民族資料の概容について紹介した名取(1934)によれば、所蔵資料のうち 4 点が近文、4 点が浜益、1 点が上川収集であり、現状との間には混乱がみられる⁽¹⁾。本報告は、HUNHM に保管されている墓標資料の管理情報について整理し、どのような理由に基づいてこのような情報の混乱が生じたのかについて考察すること、および今後の研究利用においてより信頼できる情報を示すことを目的とする。

資料の現状

はじめに、情報に混乱のない上川収集【00180】を除く 8 点の HUNHM 所蔵墓標資料の現状と資料に付属する情報について確認する(図 1-8)。表 2 に示したように、8 点の資料には同筆とみられる資料番号と、3 点に資料のアイヌ名、収集地、模型の製作者名と収集者である名取武光に関する資料番号とは異なる筆による注記がある。他の資料には資料情報を示す注記や付属ラベルはなく、資料自体からは現状の目録情報との間の矛盾はみられない。

表 2 HUNHM 所蔵墓標資料の注記

資料番号	注記 1	注記 2
【00172】	No172	
【00173】	No173	エムシクワ 濱益毛 山下三五郎作(名取)
【00174】	No174	オップクワ 濱益毛 山下三五郎作(名取)
【00175】	No175	ブタウンクワ 濱益毛 アイヌ 山下三五郎作
【00176】	No176	
【00177】	No177	
【00178】	No178	
【00179】	No179	

(1) 名取(1934)は「墓標(クワ)一個(近文)」とするが、これは誤植である。資料点数については名取(1972)に基づく。

ⁱ 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター



図 1. 【00172】



図 2. 【00173】



図 3. 【00174】



図 4. 【00175】



図 5. 【00176】



図 6. 【00177】



図 7. 【00178】



図 8. 【00179】

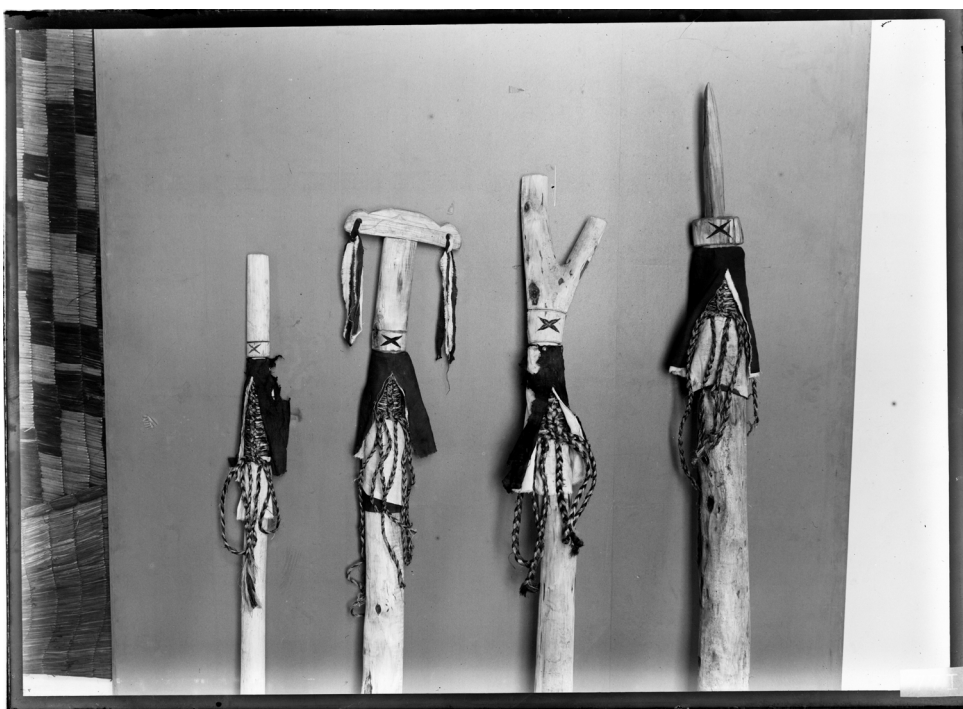


図 9. 名取 (1934) に掲載された墓標図の原板 (HPN80282)

各年代、各媒体における資料情報

当該資料群に関する資料情報について、収集者と考えられる名取武光による記載を確認した後、博物館における各年代、各媒体の管理情報を示し、いつどのような混乱が生じてきたのかについて確認する。

[1934年 名取による資料情報]

名取(1934)は、4点の旭川(近文)アイヌの墓標を図に示している(図9)。左から【00177】、【00179】、【00176】、【00178】に対応し、順にエフダニクワ(棒状)〔男女標〕、プタウシクワ(丁字形)〔女標〕、マツカクワ(股木形)〔男標〕、オップクワ(鉾形)〔男標〕のアイヌ語名称を記載している。また、図としては示していないが浜益の墓標模型としてオップクワ〔男標〕、エムシクワ〔男標〕、プタウシクワ、エフダニクワの4点について触れている。前三者は資料に注記のある【00174】、【00173】、【00175】にそれぞれ該当し、注記のない【00172】も棒状であることから名取が記載したエフダニクワに該当するものと考えられる。

[1961年 新たに運用された博物館資料台帳]

HUNHMの資料台帳は、1877年の札幌仮博物館設立以降様々な様式のもの運用されていたようであるが、現行の資料台帳は1961年に運用が開始されたものである。資料の収集・管理が開始されてから80年以上が経過した段階で、動物、民族、考古、歴史など各分野の資料が週登録されたため、その記載情報の正確さには少なからず問題があることが指摘されている(加藤2004,2008など)。

【00172】から【00179】の資料台帳の記載を図10に示す。資料台帳では当初【00172】から【00175】の4点が「近文」収集、【00176】から【00179】の4点が「浜益」収集となっており、点数こそ名取の記述と対応するものの、各資料の収集地の情報は入れ替わっている。また、アイヌ語名称についても名取が示したものと異なっており、この時点で名取の情報と異なる資料情報が付与されていたことが確認される(表3「資料台帳1961」欄)。なお、図10に見るように、資料台帳において【00173】から【00175】の3点が「浜益毛」へと修正されている。また、【00173】のアイヌ語表記も「オップクワ」から「エムシクワ」へと修正されている。この修正がいつ、どのように行われたのかについては後述するが、公開資料目録の資料情報は現行台帳の記載に従っていることが確認される。

172	墓標	エフダニクワ		近文(男女とも)
173	〃	オップクワ	(男用) 浜益毛	〃 (男)
174	〃	〃 オップクワ	(男用) 〃	〃 〃
175	墓標	プタウシクワ		近文(女)
176	〃	エムシクワ		浜益(男)
177	〃	エフダニクワ		〃 (女)
178	〃	オップクワ		〃 (男)
179	〃	プタウシクワ		〃 (女)
180	〃	マツカクワ		上川(男)

図10. HUNHM 資料台帳における墓標資料の情報

[1963 年ごろ 展示における資料情報]

図 11 は、1963 年から 1989 年までアイヌ民族資料の展示公開を行っていたバチェラー記念館内部の様子を示す写真である。この写真が含まれるネガフィルムにはバチェラー館の外に 1962 年から 63 年にかけて展示されていた機関車大勝号が確認される。このことから、この写真群はバチェラー館が民族資料の展示室として整備された際の状況を記録するために撮影されたものと判断され、1963 年の資料情報を示すものと位置づけられる。

展示資料は上段左から【00172】、【00175】、下段に【00174】、【00173】、【00176】、【00177】、【0180】、【00179】、【00178】が確認される。この時点ですべての墓標資料が展示されており、それぞれ収集地、アイヌ語表記が示されている。画像が鮮明でない部分もあり不確実な点も存在するが、それぞれの資料に対応するキャプションの情報を表 3「展示 1963」欄に示した。現行資料台帳の運用が開始された直後であるにもかかわらず、【00176】の収集地が「浜益」であることや、【00176】、【00178】、【00179】のアイヌ語表記も資料台帳の情報と異なっている。



図 11. 1963 年における展示室の墓標資料の様子 (HPN00045 の一部拡大)

表3 墓標資料に付属する情報の変遷

各年代の媒体に基づく墓標資料の情報（収集地、アイヌ語名称、男性用・女性用）の変遷を示す

HUNHM No.	資料注記	名取 1934	資料台帳 1961	展示 1963	カード 1975	キャプション 1989	キャプション備考	資料台帳・目録 2008
【00172】	-	浜益	近文	近文	-	浜益		近文? (浜益)
	-	(エフンダニクワ)	エフンダニクワ	エフンダニクワ	-	オプクワ	改訂キャプション	エフンダニクワ
	-	-	男女とも	男女性用	-	男性用		男女とも
【00173】	濱俣毛	浜益	近文	近文	-	浜益		浜益毛
	エムシクワ	(エムシクワ)	オプクワ	オプクワ	-	エムシクワ	1963の【00178】に付属か	エムシクワ
【00174】	-	男標	男	男性用	-	男性用		男
	濱俣毛	浜益	近文	近文	-	浜益		浜益毛
	オプクワ	(オプクワ)	オプクワ	オプクワ	-	オプクワ	1963の【00177】に付属	オプクワ
【00175】	-	男標	男	男性用	-	男性用		男
	濱俣毛	浜益	近文	近文	-	浜益		浜益毛
	プタウンクワ	(プタウンクワ)	プタウンクワ	プタウンクワか	-	エフンダニクワ	1963の【00179】に付属か	プタウンクワ
【00176】	-	-	女	男性用か	-	女性用		女
	-	近文	浜益	近文	近文	近文		浜益
	-	マッカクワ	エムシクワ	プタウンクワ	-	プタウンクワ	1963の【00176】に付属	エムシクワ
【00177】	-	男標	男	女性用	-	女性用		男
	-	近文	浜益	浜益	近文	近文		浜益
	-	エフンダニクワ	オプクワ	オプクワ	-	エフンダニクワ	1963の【00172】に付属	オプクワ
【00178】	-	男女標	女	男性用	-	男女用		女
	-	近文	浜益	浜益	近文		所在不明	浜益
	-	オプクワ	プタウンクワ	エムシクワ	-			プタウンクワ
【00179】	-	男標	男	男性用	-			男
	-	近文	浜益	浜益	近文	近文		浜益
	-	プタウンクワ	マッカクワ	エフンダニクワ	-	プタウンクワ	改訂キャプション	マッカクワ
【00179】	-	女標	女	女性用	-			マッカクワ
	-	近文	浜益	浜益	近文	近文		浜益
	-	オプクワ	マッカクワ	エフンダニクワ	-	プタウンクワ	改訂キャプション	マッカクワ

名取（1934）は【00172】から【00175】の図を示していないため、対応するアイヌ語名称は筆者による推定である。キャプション 1989 欄はキャプション右肩の資料番号に基づいて記載した上で、備考欄に図 11 と残存する展示キャプションの録筆記載資料番号を参考にして 1963 年時点における付属状況を示した。

[1975 年 歴史民俗資料調査カード]

HUNHM が 1975 年に文化庁の様式に基づいて作成した「歴史民俗資料調査カード (民俗)」という資料がある (図 12)。1963 年から 1992 年まで HUNHM に勤務していた難波琢雄が保管していたこのカードには、「176」から「179」の 4 点の資料番号が記載された墓標資料について記載されたものが含まれており、その実測図、写真から現在の資料と対応させることができる。これらのカードの備考欄には「墓標は模型で、採集地は近文であるが、旭川地方のものとは限らない」という記載がある。この時点で、【00176】から【00179】については、資料台帳の情報「浜益」とは異なり、名取の記述と合致する収集情報「近文」が認識されていたことが把握される (表 3「カード 1975」欄)。

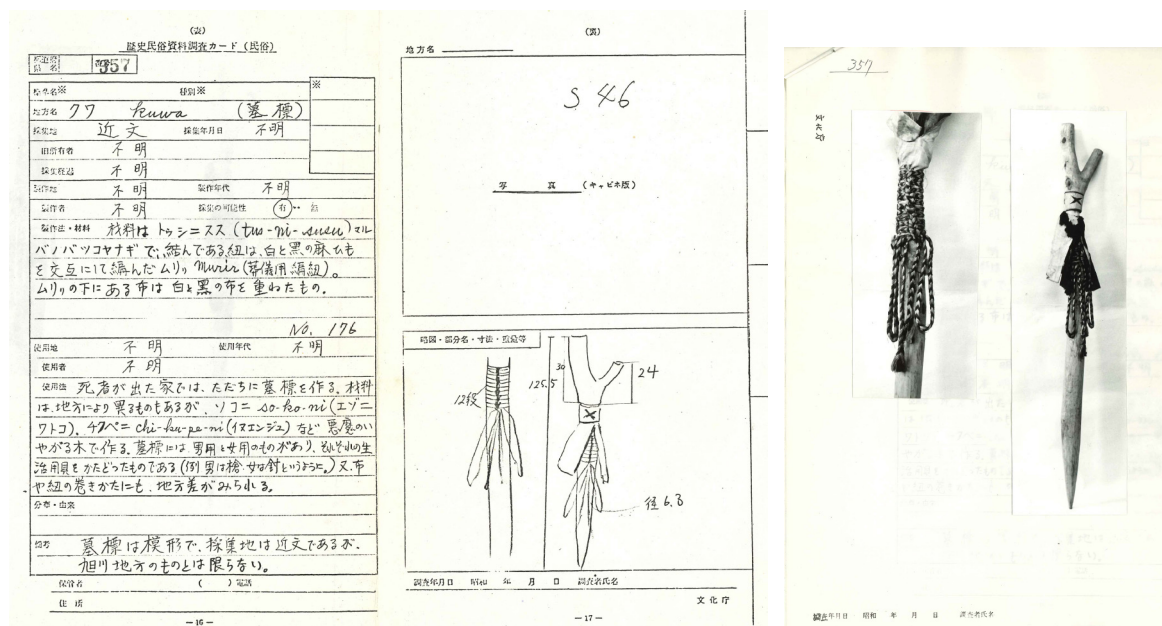


図 12. 歴史民俗資料調査カード【00176】

[博物館資料のラベル、展示キャプション]

難波の手元に残されていた博物館のラベル、展示キャプションなどの HUNHM 関連資料にも墓標に関するものが含まれていた。展示キャプションは図 13 に示したような手書きの大型のものが多く残されていた。これらのキャプションには画鋲痕が確認され、展示室あるいは資料そのものに付属していたと推測されるが、その記述に修正が施されていたり、当該キャプションとともに同一資料に関する新しいキャプションの原稿と考えられる資料が付属している場合が多い。これらの点から、このキャプション資料は 1989 年に新たな展示施設である北方民族資料室が設置された際に展示キャプション群を整備するために、それまでの展示環境あるいは収蔵環境下で利用されていたキャプションが取り外されたものとキャプション改訂作業に利用されたものが核になっているものと判断される。なお、1989 年当時から勤務している市川秀雄の談によれば、この時期には一部手書きのキャプションは残っていたものの、印刷されたキャプションも利用されていたとのことであり、保存されていたキャプションすべてが 1989 年前後に取り外されたわけではなく、それ以前の展示改訂の際に取り外されたものである可能性もある。ただし、それぞれのキャプションの右肩には図 11 を含む展示キャプションには確認できない資料番号の記載がある (図 13)。このことから、保存されているキャプションの大部分は、展示および収蔵管理に大きな変更があった 1989 年ごろにまとめられたものと判断してよいだろう。

展示キャプション資料群のうち、墓標に関するものは以下に示す 7 点 (図 13-19) である。キャプション改訂作業

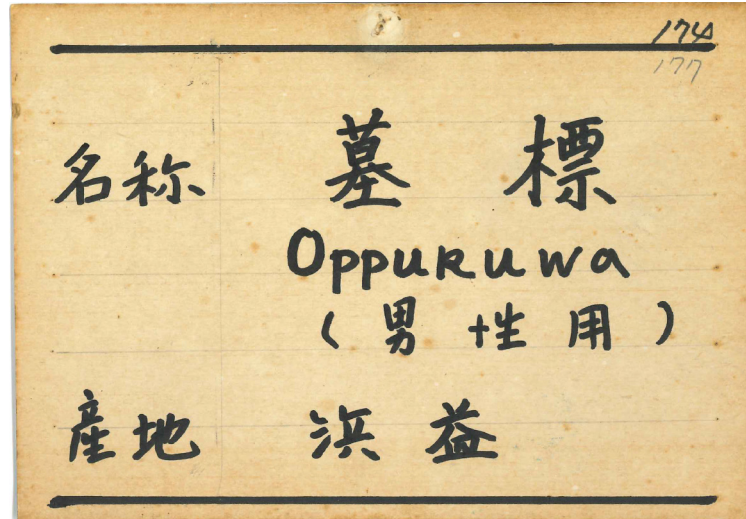


図13. 展示キャプション 1963年時点で【00177】に付属し、「174」に修正されたもの

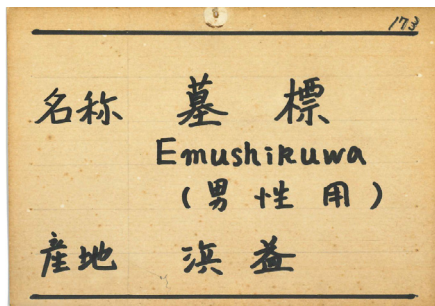


図14. 【00173】展示キャプション 1963年時点で【00178】に付属していたと考えられるもの

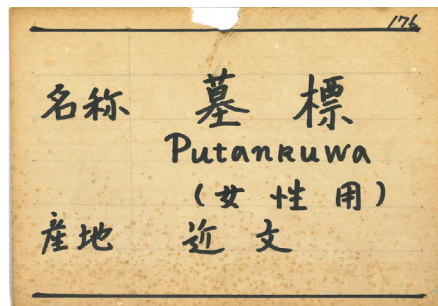


図15. 【00176】展示キャプション 1963年時点においても【00176】に付属していたもの



図16. 【00175】展示キャプション 1963年時点で【00179】に付属していたと考えられるもの

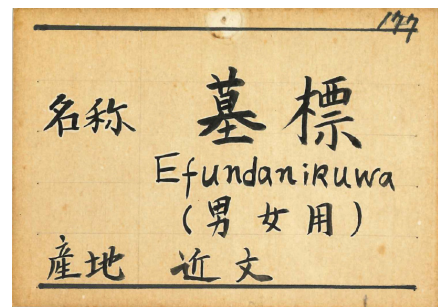


図17. 【00177】展示キャプション 1963年時点においても【00172】に付属していたもの

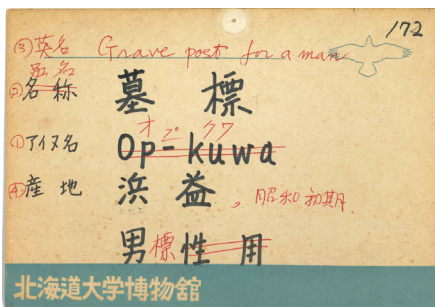


図18. 【00172】展示キャプション案



図19. 【00179】展示キャプション案

に利用されたと考えられる2点(図18、19)を除く5点は、図11に示したパチェラー記念館での展示に利用されていたキャプションとみられる。ただし、展示状況と比較するといくつかの問題点を把握することができる。図13のキャプションには「174」というペン書きの資料番号と「177」の鉛筆書きの資料番号とが記載されている。他のキャプションにおいても、鉛筆書きの資料番号の上にペン書きの異なる資料番号が記載されていることが確認される(表3「キャプション1989」欄及び「キャプション備考」欄)。図11において、図13のキャプションは【00177】に付属していたものであることから、鉛筆書きの資料番号は展示室から取り外す際に資料番号である「177」を鉛筆で記載したが、このキャプションの収集地が「浜益」であり、難波の認識する【00177】の収集地「近文」と異なっているため「174」に修正されたものと推測される。

キャプションのアイヌ語表記と名取(1934)の記載したアイヌ語表記との対応関係には混乱が残るものの、修正された資料番号に対応する各資料の収集地情報については、【00172】から【00175】が「浜益」、【00176】から【00179】が「近文」と名取の記載に合わせる形になっており、1863年の展示における情報混乱が1989年の新展示室構築にあたって修正しようと試みられていたことをうかがわせる。なお、難波の研究ノートに含まれている墓標資料写真には、本稿で検討対象となっている【00176】から【00179】に関する古い写真が含まれていた(図20)。これは、「北海道文化財」(北海道教育委員会1964)に掲載されているもので、墓標資料の収集者である名取あるいは掲載記事著者の犬飼哲夫の撮影した写真であると考えられる。この写真には、名取が記述する各墓標のアイヌ語表記の記載があり、キャプションのアイヌ語表記の誤りについて難波自身は把握していたと考えられることを付記しておく。



図20. 難波資料に含まれていた墓標資料写真

資料情報混乱の経緯

ここまで示した HUNHM 所蔵墓標資料の収集情報の混乱が生じた理由を明確に示す材料はないが、混乱の経緯について推測することとしたい。

現行の資料台帳が運用され始めた1961年には、アイヌ文化を主たる研究対象とする職員が不在であった。そのような中で台帳登録を進めるにあたっては、資料に付属するラベル等が唯一の根拠であったと考えられる。台帳登録時に墓標資料にどのような情報が付属していたのかは定かではないが、名取(1934)が「近文」収集とした資料が「浜益」収集として登録されていることから、この段階で何らかの混乱が生じていたか、台帳登録時に資料を誤認して誤った形で登録されたものと推測される。また、1963年のパチェラー館での展示設計にあたっては、台帳情報に基づいてキャプションが作成されたものの、台帳に記載されたアイヌ語表記と異なるものが利用されていたり、台帳上で「浜益」とされた【00176】に対して「近文」という説明が加えられているなど、大きな混乱がみられる。

パチェラー館における展示が整備された年に難波が担当職員に就任し、資料の管理、整備にあたることとなった。歴史民俗資料調査カードの記載から、難波は1975年ごろまでには展示されている墓標資料の収集地情報に混乱があることを認識していたことが確認される。ただし、1989年に取り外されたと考えられるキャプションには混乱が残っていたことから、混乱の修正は難波の研究ノートや文化庁への情報提出の範囲にとどまり、展示キャプションや資料台帳の記載には及ばなかったものと推測される。

1989年にアイヌ民族資料の展示室がパチェラー館から現在の北方民族資料室へと変更となった。これに伴い、墓標資料に付属していたキャプションの記載内容と対応資料との混乱の修正が試みられたと考えられるが、墓標資料は展示に供されず、収蔵庫で管理されることになった。この時点で、難波が資料番号を修正したキャプションと資料とが分離した。1992年の難波の退職までは名取の資料情報が認識されていたはずであるが、難波の後を継いだ沖野慎二にはその情報が引き継がれず、それ以降は資料に注記されている資料番号と資料台帳のみによって管理されるようになり、【00172】から【00175】には「近文」、【00176】から【00179】には「浜益」という情報が付属してい

ると認識されるようになったものと考えられる。

その後、沖野による資料整理の中で、【00173】から【00175】に注記されている「浜増毛」という収集情報とアイヌ語表記があることが認識され、資料の注記に基づく修正が資料台帳に施された（表3「資料台帳・目録2008」欄）。また、1999年に沖野の後を継いだ加藤克による資料情報のデータベース化に伴う資料確認の際に、【00172】も【00173】から【00175】と同じ資料群であると判断されたことから、「近文？ 名取によれば浜益」という注記が資料データベースに加えられた。この結果、当初近文4点、浜益4点とされた墓標資料群が、浜益7点及び近文？1点という形になったのである。

以上の推測に基づく資料情報の混乱の経緯によれば、1961年の台帳登録時によって生じた混乱は、1975年までに難波によって誤りがあることが認識されており、資料台帳を修正する機会があった。また加藤によって【00172】に対して行ったデータベースへの注記の際に名取（1934）による記載を厳密に確認していれば、【00176】から【00179】の収集地が「近文」であると修正する機会があり、資料目録として刊行する際に混乱を生じさせないようにすることは可能であった。HUNHMは教務職員あるいは教員という学芸系情報を扱う職員が1名しか配置されてこなかったという点、当該職員が必ずしも民族学を専門としていないという点など、情報の引継が難しい状況にあったとはいえ、資料情報の適切な継承や検討が行われてこなかったことについては大きな問題があると考えられる。

資料情報の修正

ここまで述べてきたように、HUNHM所蔵墓標資料の公開資料情報には問題がある。ここで、妥当と考えられる資料情報を示し、今後の利用に供することとしたい。

HUNHM所蔵墓標資料のうち【00180】は明治期の資料台帳に掲載されているが、残りの8点はそれらに確認されない（加藤2004）。また、【00172】から【00175】及び【00176】から【00179】の製作者あるいは情報提供者はいずれも昭和初期の名取武光の研究協力者であることから、8点の墓標資料は名取の収集、あるいは依頼製作資料であると考えられる。つまり、最も信頼できる資料情報は名取（1934）であるとみなしうる。各資料には資料番号が注記されていること、それらの資料番号は歴史民俗資料調査カードやHUNHMによって公開されている資料目録と対応していることから、資料番号を修正することは望ましいことではないと判断される。このため、各資料の資料情報を以下のように修正する。過去の情報混乱を含め、利用にあたっては留意されたい。

修正資料情報

【00172】 墓標（模型） エフンダニクワ 男女標 浜益 （山下三五郎作、名取武光収集か）

（注）過去に男性用、近文収集、オプクワという情報が付属（情報混乱あり）

【00173】 墓標（模型） エムシクワ 男標 浜益 山下三五郎作、名取武光収集

（注）過去に近文収集、オップクワという情報が付属（情報混乱あり）

【00174】 墓標（模型） オップクワ 男標 浜益 山下三五郎作、名取武光収集

（注）過去に近文収集という情報が付属（情報混乱あり）

【00175】 墓標（模型） プタウンクワ 女標 浜益 山下三五郎作、名取武光収集

（注）過去に男標、近文収集、エフンダニクワという情報が付属（情報混乱あり）

【00176】 墓標 マッカクワ 男標 近文 （名取武光収集か）

（注）過去に女標、浜益収集、エムシクワ、プタンクワという情報が付属（情報混乱あり）

【00177】 墓標 エフンダニクワ 男女標 近文 （名取武光収集か）

（注）過去に男標、女標、浜益収集、オップクワという情報が付属（情報混乱あり）

【00178】 墓標 オップクワ 男標 近文 （名取武光収集か）

（注）過去に浜益収集、プタンクワ、エムシクワという情報が付属（情報混乱あり）

【00179】 墓標 プタウンクワ 女標 近文 （名取武光収集か）

（注）過去に浜益収集、マッカクワ、エフンダニクワという情報が付属（情報混乱あり）

謝辞

本稿執筆にあたり、資料情報の混乱の存在について指摘いただくとともに、参考情報を提供していただいた北海道博物館の大坂拓氏に感謝申し上げます。

関係文献

北海道教育委員会 1964. 北海道文化財シリーズ 第6集 アイヌ文化篇, 札幌

加藤 克 2004. 札幌農学校所属博物館のアイヌ民族資料, 北大植物園研究紀要, 4: 1-54

加藤 克 2008. 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について: 歴史的背景を中心に, 北大植物園研究紀要, 8: 35-91

名取武光 1934. 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説 二, ドルメン, 3 (4): 257-269

名取武光 1972. 北大附属博物館所蔵アイヌ土俗品解説, アイヌと考古学 (一) 名取武光著作集 I, 57-103